

平成 27 年度第 3 回技術委員会議事録

会議名	金属・セラミックス技術委員会	主催者：電気学会
日時	平成 27 年 10 月 15 日(木)15:00～17:00	場所：(社)電気倶楽部 C 会議室
出席者	吉川(横国大)、一瀬(電中研)、木村(古河)、窪谷(東芝)、水野(鉄道総研)、伴野(NIMS) 【敬称略】	

【配布資料】

- 1) 271015-1 前回 (H27/7/22) 議事録 (案)
- 2) 271015-2 電気学会 金属・セラミックス技術委員会 名簿
- 3) 271015-3 委員会構成員変更届ほか
- 4) 271015-4 平成 27 年度 金属・セラミックス技術委員会分掌
- 5) 271015-5 平成 28 年電気学会全国大会シンポジウム (案) 提案用紙
- 6) 271015-6 平成 27 年度 金属・セラミックス技術委員会活動計画
- 7) 271015-7 平成 27 年度 活動状況

【議事】

1. 前回議事録の確認

- ・ 資料 271015-1 に基づき前回議事録の確認を行い承認された。

2. 名簿の確認

- ・ 資料 271015-2 に基づき名簿が確認された。

3. 新規委員の追加について

- ・ 新規委員として埼玉工業大学 石崎博基様を迎えることとなった (資料 271015-3)。エネルギー制御工学研究室で、もともとは半導体や太陽電池など応用物理分野で幅広くご活躍中である。

4. 役割分担の確認

- ・ 資料 271015-4 に基づき各委員の役割分担について確認された。

5. 2016 電気学会全国大会・シンポジウム企画

- ・ 資料 271015-5 に基づき、金セラ技術委員会で提案した企画案 (超電導ケーブル) が報告された。技術委員会 (金セラ技術委員会) から 1 件、調査委員会から 5 件の提案があった。通常 4 件で上部委員会の承認が必要だが、全部通ると思われる。12 月上旬で勧誘する。東北大の淡路先生にお願いするか。

6. 特集号の企画について

- ・ 吉川委員長より、解説論文 2 件を提案した旨報告された。一つは磁性体と超電導体を融合した超伝導デバイスに関する内容 (名古屋大 赤池氏)、もう一つは超電導デバイスを用いた超低消費電力回路に関する内容 (横国大 山梨氏) である。いずれも新しい展開が期待できる。会告は 11 月末を予定している。

- ・調査委員会の活動状況について話題になった。期間は3年であるので、少しずつ進めていかないと後詰まりになる恐れがある。

7. 研究会の共同開催について

- ・若手研究会(11/15)は電気学会へまだ提案されていない状況であったが、開催日が近くスケジュールがタイトになることから、今回は金セラ技術委員会主催で開催することとなった。その場合、A部門の表彰の対象とはならない。資料は1枚ものでよい。

8. 平成27年度活動計画

- ・吉川委員長より資料271015-6に基づき、金属・セラミックス技術委員会活動計画について説明があった。

9. 調査専門委員会立ち上げ状況

- ・吉川委員長より資料271015-7に基づき、当技術委員会の活動状況が報告された。「超伝導材料の評価技術」に関する新規調査専門委員会の立ち上げについて、九大の木須先生のご了承は得ているが、状況について今度の低温工学・超電導学会の際にお伺いする。遅くとも4月から始めたいので、提案は3月までには行う。1月の技術委員会の際に、当委員会として承認したい。立ち上げに際し、会員数(割合)が問題になるかもしれない。
- ・活動状況について、さっぱりしているので研究会、見学会などをもっと盛り込むこととする。
- ・来年に予定している古河日光発電所(水力発電所)見学会および金セラ技術委員会の日程は1/14(木)～1/15(金)とすることが確認された。見学を14日午後に開催し、技術委員会は14日の見学後、もしくは15日午前中に鬼怒川荘会議室にて開催する。木村委員に計画書案を作成してもらおう。日光駅→発電所→鬼怒川荘の移動は車を使うのが無難と思われる。参加者数は多くて15人ほどを見込み、10名以内であればワゴンタクシーを利用し、それ以上の場合は委員の自家用車で対応する。宿泊は古河電工鬼怒川荘である。一人8000円ぐらいのイメージである。

10. その他

- ・一瀬委員より今後の活動方法について報告があった。部門ごとに予算が下りず、技術委員会毎で運営することになる。見学会などで、会議室使用料などを確保していくことが必要となる。
- ・次回委員会は上記の通り、来年1月14日古河にて行う。